

2023年3月吉日

PRESS RELEASE



川崎市 岡本太郎美術館
Taro Okamoto Museum of Art, Kawasaki

幻視の表現者

村山槐多関根正

「から現代まで」

顕神の夢

主催 川崎市岡本太郎美術館「顕神の夢」展実行委員会
助成 一般財団法人地域創造
監修 鎌田東二 京都大学名誉教授

開館時間 9時30分〜17時
入館は16時30分まで 休館日 月曜日（5月1日を除く）、5月9日（火）
期間中展示替えあり 前期 4月29日〜5月28日 後期 5月30日〜6月25日

April 29 — June 25, 2023 open 9:30 close 17:00 土祝
closed: Mondays (except May 1) and May 9

2023.4.29 6.25

観覧料：一般1,000(800)円、高・大学生・65歳以上800(640)円、中学生以下無料 ※カッコ内は20名以上の団体料金

川崎市岡本太郎美術館
〒210-0861 川崎市川崎区大倉町1-1-1 電話 044-596-0000
FAX 044-596-0001 Eメール info@taro-okamoto-museum.jp
URL http://taro-okamoto-museum.jp



展覧会概要

非合理的で直接的な経験が表現者にとってかけがえのないモチベーションとなり得ることは確かです。それはある種の宗教的な体験に似ていますが、宗教以前のものであり、宗教のもととなる出来事とも解釈できます。

表現者たちは、訪れたヴィジョンをたよりに、自己を超えた名状し難い「何か」を捉えるべく身を焦がす思いで制作します。「何か」へのあこがれや思慕は、漠とした信仰心の発露ともいえます。しかし、描けば描くほど、作れば作るほど、その「何か」は、表現者の手からすり抜け別のものとなり替わってしまいます。そのため、彼らは向こうから「何か」がやってくるのを待つしかありません。本展ではこのような心情を仮に「顕神の夢」と名付けてみました。

No.14



中国孔二《無題》2014 年 個人蔵
©Koji Nakazono, Nakazono Family
Courtesy of Tomio Koyama Gallery

ときとして土俗的な印象を与える作品が出来(しゅったい)しますが、それは、

近代化により捨象されず根強く残った心情の証しです。このような作品は既存の尺度では、測りえないものです。かといって、排除するわけにはいきません。現に作品は凄まじい力をもって迫ってきます。ならば、私たちは、作品にふさわしい尺度を学び、鍛えなければなりません。尺度がすぐえば作品は豊かな世界を開示してくれます。また、このような観点から、いわゆるモダニズムの文脈でのみ解釈されていた作品を読み直すことも可能です。優れた作品はすべからず不可知の領域に根ざしていると思われます。

本展は、今までモダニズムの尺度により零れ落ち、また、十分に評価されなかった作品に光をあてます。また、すでに評価が定まった近代の作品や、批評の機会を待つ現代の作品を、新たな、いわば「霊性の尺度」でもって測りなおすことにより、それらがもつ豊かな力を再発見、再認識する試みです。

No.4



関根正二《三星》1919 年
東京国立近代美術館蔵（後期展示のみ）

No.1



村山槐多《裸婦》1915-16 年
町立久万美術館蔵

No.2



関根正二《少年》1917 年
個人蔵

No.3



萬鐵五郎《かなきり声の風景》1918 年
山形美術館寄託

No.5



古賀春江《サーカスの景》1933 年
神奈川県立近代美術館蔵
©上野則宏 Photo by©Norihito Ueno



開催概要

展覧会名 「顕神の夢 一幻視の表現者― 村山槐多、関根正二から現代まで」展
会 場 川崎市岡本太郎美術館 企画展示室
会 期 2023 年 4 月 29 日（土・祝）～2023 年 6 月 25 日（日）
開館時間 9：30～17：00（入館は 16：30 まで）
休 館 日 月曜日（5 月 1 日を除く）、5 月 9 日（火）
観 覧 料 一般 1,000（800）円、高・大学生・65 歳以上 800（640）円、中学生以下無料
（ ）内は 20 名以上の団体料金
※本料金で常設展もご覧いただけます。
主 催 川崎市岡本太郎美術館、顕神の夢展実行委員会
助 成 一般財団法人地域創造
監 修 鎌田東二（京都大学名誉教授）

※会期中展示替えがあります。（前期：4 月 29 日～5 月 28 日 後期：5 月 30 日～6 月 25 日）

同時開催 常設展「岡本太郎と太陽の鳥」会期 4 月 20 日（木）～7 月 2 日（日）

みどころ

●日本近代の名品から現代美術まで幅広く展示

江戸時代の円空の作品から新進気鋭の若手作家まで、幅広い年代の約 50 名の表現者の作品が一堂に会します。日本近代の名作と現代美術が時代を超えて同じ会場に展示されるのは、「人間を超越した『何か』を感知し表現すること」をテーマとする本展ならではの特徴です。

●「人間を超越した『何か』」との関係性を軸とした展示

展覧会場は全 5 章構成で、「人間を超越した『何か』」と表現者との関係性を軸に展開していきます。第 1 章では、『何か』に憑りつかれて、つまり神懸りによって生まれた作品を展示します。第 2 章では、常人では感じえない『何か』を幻視する作家を紹介します。第 3 章で展示されるのは、夢に現れるイメージのように、『何か』からの刺激によって網膜を介さずに現れる光を留めた作品です。第 4 章では『何か』の姿を模った作品を、第 5 章では別次元の視点によって『何か』をこの世界にもたらし作品を紹介します。

●日本美術史を編み直す新たな視点

本展は、西洋的な美術史観とは別角度から、美術を捉えなおそうとする試みでもあります。モダニズムに通底する一神教的な価値観とは異なる、多様な『何か』によってもたらされた「霊性の尺度」によって新旧の作品を読み直していくことを目指します。

※本展では写真・動画撮影不可となります。



展示構成

1. 見神者たち
2. 幻視の画家たち
3. 内的光を求めて
4. 神・仏・魔を描く
5. 越境者たち

主な出品作品

絵画、立体作品 約 50 作家、計 約 140 点

No.6



高島野十郎《蠟燭》戦後期
久留米市美術館蔵

No.7



牧島如鳩《魚籃観音像》1952 年
公益財団法人足利市民文化財団蔵

No.8



岡本太郎《渾沌》1962 年
川崎市岡本太郎美術館蔵

No.9



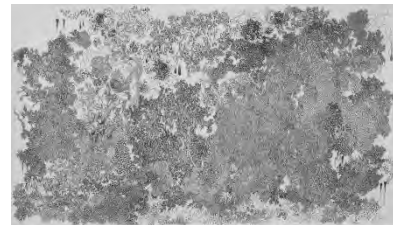
金井南龍《母の国》1969 年
さすら蔵

No.10



平野杏子《善財南へ行く》1974 年
平塚市美術館蔵

No.11



真島直子《妖精》2011 年
作家蔵（足利市立美術館寄託）
撮影：宮島径 ©MAJIMA Naoko
Courtesy of the artist and Mizuma Art Gallery

No.12



舟越直木《マグダラのマリア》2013 年
個人蔵

No.13



O JUN《XMAZ》2013 年 作家蔵
撮影：宮島径 ©O JUN
Courtesy of Mizuma Art Gallery

No.15



内田あぐり《夜の人》2022 年
作家蔵



関連イベント

●「顕神の夢」展開幕記念鼎談

展覧会監修者と本展提案者 2 名が「顕神の夢」について熱く語り合います。

日 時：4 月 29 日（土・祝） 14:00～

登壇者：鎌田東二（京都大学名誉教授、展覧会監修者）

江尻潔（足利市立美術館次長）

土方明司（川崎市岡本太郎美術館館長）

会 場：岡本太郎美術館 ガイダンスホール

定 員：40 名程度（当日先着順）

料 金：無料（要観覧料）

●出品作家によるギャラリートーク&ワークショップ

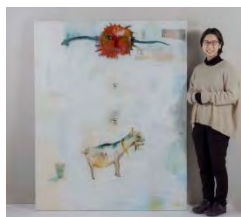
作家がワンポイントで展覧会と作品について語ります。また、作家と交流ができるワークショップも同日に開催します。

※ワークショップ詳細と申込方法は館公式 HP にて随時お知らせします。

<http://www.taromuseum.jp>

①講師：花沢忍（画家）

日時：5 月 21 日（日） 時間：未定



講師：花沢忍氏

②講師：三宅一樹（彫刻家）

日時：6 月 3 日（土） 時間：未定



三宅一樹

《root1（上九沢八坂神社御神櫓）》
（2011 年）（photo: Satoshi Nagare）

●学芸員によるギャラリートーク

日時：5 月 27 日（土）、6 月 17 日（土） 両日とも 14:00～

会場：岡本太郎美術館 企画展示室

料金：無料（要観覧料）

申込：不要。開始 5 分前に企画展示室入口にお集まりください。

その他、関連イベントは当館ホームページで随時お知らせします。

<https://www.taromuseum.jp>



お問い合わせ

川崎市岡本太郎美術館 展覧会担当：喜多、佐藤 広報担当：山内、森近(pr@taromuseum.jp)

〒214-0032 神奈川県川崎市多摩区枡形 7-1-5 生田緑地内

TEL:044-900-9898 / FAX:044-900-9966



「頭神の夢 一幻視の表現者— 村山槐多、関根正二から現代まで」展

No.1



No.2



No.3



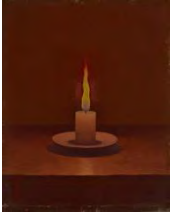
No.4



No.5



No.6



No.7



No.8



No.9



No.10



No.11



No.12



No.13



No.14



No.15



※画像のご使用の際には、必ずキャプション・クレジット・所蔵先をご明記くださいますよう、お願いいたします。

- ① 村山槐多《裸婦》(1915-16 年) 町立久万美術館蔵
- ② 関根正二《少年》(1917 年) 個人蔵
- ③ 萬鐵五郎《かなきり声の風景》(1918 年) 山形美術館寄託
- ④ 関根正二《三星》(1919 年) 東京国立近代美術館蔵(後期展示のみ)
- ⑤ 古賀春江《サーカスの景》(1933 年) 神奈川県立近代美術館蔵 ©上野則宏 Photo by©Norihiro Ueno
- ⑥ 高島野十郎《蠟燭》(戦後期) 久留米市美術館蔵
- ⑦ 牧島如鳩《魚籃観音像》(1952 年) 公益財団法人足利市民文化財団蔵
- ⑧ 岡本太郎《渾沌》(1962 年) 川崎市岡本太郎美術館蔵
- ⑨ 金井南龍《妣の国》(1969 年) さすら蔵
- ⑩ 平野杏子《善財南へ行く》(1974 年) 平塚市美術館蔵
- ⑪ 真島直子《妖精》(2011 年) 作家蔵(足利市立美術館寄託)

撮影：宮島径 ©MAJIMA Naoko Courtesy of the artist and Mizuma Art Gallery

- ⑫ 舟越直木《マグダラのマリア》(2013 年) 個人蔵
- ⑬ O JUN《XMAZ》(2013 年) 作家蔵

撮影：宮島径 ©O JUN Courtesy of Mizuma Art Gallery

- ⑭ 中園孔二《無題》(2014 年) 個人蔵

©Koji Nakazono, Nakazono Family Courtesy of Tomio Koyama Gallery

- ⑮ 内田あぐり《夜の人》(2022 年) 作家蔵